

すいれんの思い

2-1. 基本理念

「子ども達の生きる力をより豊かに、より強く育むため、たくさんの愛とたくさんの笑顔を注ぎ、子どもが主役となる保育園」

愛育を信条とし、愛情深く子どもと関わることで、子どものコミュニケーション感覚を養います。子ども達の生きる力をより豊かにより強く育むために、たくさんの愛とたくさんの笑顔で子どもが主役となる保育園を目指します。

そのために、「自分もみんなも大切にできる温かい心、優しい心」を育てることを基本方針とし、子どもたちが素直に「ありがとう」と伝えられる感謝の心と平和の心を育みます。互いに尊重し認め合う環境の中で、共に成長し未来を繋いでいきます。

2-2. 基本的な視点

視点1:子どもの幸せを第一に考える視点

子どもの幸せとは、第一に親や周囲の人間から愛情を受け取り、感じることでないと認識しています。それに伴い、子どもは自然に笑顔を獲得していくはずですが、子どもが笑顔で過ごせるようにするためには、子どもの生理的欲求を満たし、一人ひとりの甘えや欲求を十分に受け止め、信頼関係を築きながら成長を見守るべきだと確信しています。

視点2:すべての子育て家庭を支援する視点

子どもを産んだからと言って、全員が愛情深い親になるとは限りません。なぜなら、親、子ども共に個性があるからです。私は、どのような母親がいてもいいと思っています。子育てに苦手意識がある場合は、得意な者に任せればよいと考えます。そのためにも、保護者が働いていなくても自由に子どもを預けられる場所が必要であり、すべての子育て家庭を支援する園として大切な考え方になるのではないかと思います。

視点3:仕事と生活の調和の実現を促す視点

子育てをする保護者が仕事と生活を調和させるために、まずは生活環境を整えることが必要であると考えます。私自身も4人の子育てをしながら仕事をしていた時は、両親や夫、多くのママ友に助けられました。このような環境がなければ、調和の実現はなかなか難しいと思います。当方は、保護者の仕事・家庭の事情をしっかりと理解し、各家庭の生活のしやすさに寄与できればと考えております。

視点4:地域社会等全体で子育てを支える視点

市町村によって、子育てに対する支援内容が異なります。例えば子育て支援金が給付される地域もありますが、子育てにお金はもちろん必要です。当方は、自治体と密な連携をとり、自治体から家庭の支援ができる制度などを適宜紹介するなどして経済状況を間接的に支えることも大切であると考えています。それだけでなく、地域で執り行われる行事などにも積極的に参加し、地域社会全体で子育てを行う意識を拡大していきたいです。

視点5:地域の社会資源を活用する視点

当方は小規模保育園の開園を目指しておりますが、卒園児たちとの縁は、卒園をもって途切れるものではありません。幼児期から学童期を同じ地域で過ごすであろう子どもたちには、この地域で生活することを楽しんでほしいと考えております。そこで、登別市は観光資源も豊富で自然も豊かですから、地域の社会資源ともいえる、観光地で勤務されている方や自然保護のために活動する方達とも連携をとり、地域ではどのような大人が働いているかを子どもたちに見せていく機会を作ります。

視点6:多様で良質なサービスを充実する視点

私は保育の短期大学と専門学校をともに好成績で卒業することができており、学んできた内容についても深く理解できていると自負しています。これらの学んできたことを教育現場に落とし込み、例えばリズムックを取り入れたり、自然の音や香り、目で見え楽しんだりすることにより、子どもの五感を磨き、子どもが個別で持っている意志の能力を存分に生かしながら遊べる生活環境を整えたいと思います。

視点7:地域の実情に応じた取り組みの視点

登別市の高齢化率は30%を超過しており、「地域としても高齢者が住み良い印象がある」などの声を耳にします。次世代を担うのは子どもや若い世代であることは間違いのないため、当方は子どもたちのみならず、子育て世代の人たちにも寄り添い、「この地域は子育てがしやすい」と思ってもらえる園を作ることが使命であると認識しています。

視点8:次代の担い手づくりという視点

次世代を担うのは子どもや若い世代であり、上述した通り、若い世代が住みやすい地域づくりをすることも重要ですが、さらに、その土地で働き続ける人材育成も大切です。当方も経営者として、保育学科を有する教育機関に対して学びの還元を行ったり、実習先として協力したりできることがあれば、率先したいと考えています。

2-3. 基本目標

基本目標1 地域における子育ての支援の充実

当方が考える「子育て支援」の最も理想の形は、子育て中の保護者の方が本当に必要としている支援を提供することだと思っています。保護者との関係を密にすることで保護者のニーズを把握することができ、支援の選択肢を増やすことができます。行政的支援が必要な家庭には行政との橋渡しを、保護者の心のケアが必要な場合にはカウンセリングを行うなど、適切な保護者と子どもの状況把握・支援の提供を行うことが目標です。

基本目標2 親と子の健康の確保と増進

そもそも健康とは、病気などになっていない状態ではなく、心身共に健康で、自発的に何か行動を起こしたい状態であることと認識しております。つまり、身体の健康だけでは「健康」とは言えず、心のケアも、とても重要な部分だと考えます。子どもたちの心身状況を良好に保つことは当然のことですが、希望があれば保護者のカウンセリングも実施できる環境を整えることが目標です。

基本目標3 子どもの成長に資する教育環境の整備

乳幼児にとって最も大切な事は、「基本的信頼・希望・不信」の3つです。まず、乳幼児は与えられたものを不安なく取り入れる事で、自分を信頼するようになり、自分は何でもできるという全能感にひたります。そして乳児期に獲得されるべき人格的活力は「希望」です。希望がしっかりと獲得されれば生涯にわたってさまざまな人間関係の中で出会う信頼と不信の葛藤から立ち直る力をもたらします。そして不信があることで外界への適応を意味し、「泣く」、乗り越える事で「泣きやむ」という一連の仕組みは、人生周期の中で偉大な仕組みとなります。このような確かな保育知識を現場に落とし込み、子どもの発達段階に必要な活動を提供する環境を整えます。

基本目標4 安全な子育て環境の整備

安全とは、子どもが不用意に怪我を負わないことであり、命が脅かされない状況を指します。そのため、当方は、バリアフリーな環境を作り、施設管理・衛生管理・出欠管理を徹底します。また、基本的にはクラス分けをすることにより、同じ発達段階の子ども達を遊ぶことでトラブルも減り、怪我を負う・負わせるリスクを回避します。一方、クラス分けをせずに活動することも大切にし、年齢の違う子ども同士の関わりを通し、力の差や能力の差を経験しながら成長を促していきます。

基本目標5 仕事と生活の調和の促進

遅い時間に勤務する保護者のために延長保育を提供します。また、土曜日も開園することで、土曜出勤がある場合でも安心して預ける事ができます。お子様を預けながら仕事を探すこともできます。同時に、当方と共に働くスタッフを雇った際は、スタッフも仕事と生活を調和させるよう、シフト制を取り入れることや、残業がない状況を作るなど、1日の勤務に余裕を持って働けるような職場環境を整えます。

基本目標6 障がい児、要保護児童等へのきめ細かな取り組みの促進

障がい児手帳がある子どもの受け入れは予定していませんが、基本的に、当方は「障がい」を、その子の個性であると捉えています。もし、当方へ障がい児手帳のある子どもの受け入れを相談された場合は、保護者との連携を密に行います。保育の専門家として必要な行政支援や施設紹介なども行いながら、保護者が一番納得いく状況と一緒に考えます。当方が預かることになる場合は、その他の子どもに対する配慮も最大限考えます。

小規模保育はきめ細かな保育

0～2歳児と3歳以上の子どもでは日中の過ごし方も違います。小規模保育は、基本的に0～2歳児を対象とした保育のため、0～2歳児に特化した保育を行うことができます。また、小規模保育は定員が6～19人と少なく、一般的な保育所よりも保育スタッフの手厚い人員配置が定められています。

そのため、一人ひとりの子どもに保育者の目が届きやすく、きめ細かな保育を期待することができます。子どもの個性を尊重した保育をしたり、子どもの興味にあわせた活動をすることができます。

アットホームな環境

小規模保育では、一般的な保育園よりも子どもの人数が少なく、家庭的な雰囲気の中で保育を受けることができます。保育者の人数も少ないため、子どもと保育者の距離が近く、愛着形成もスムーズな場合が多いです。一人ひとりの子どもが先生全員から見守られて過ごすことができます。特に0～1歳の赤ちゃんの時期には、少人数の家庭的な環境は落ち着きやすいでしょう。

また、小規模保育では異年齢保育を取り入れている園が多く、0～2歳児が同じ部屋で過ごすことが多いです。子どもたちが兄弟姉妹のように過ごすなかで、年上の子どもが年下の子どもをかわいがったり、年下の子どもが年上の子どもに憧れていろいろなことを真似したりするという場面も生まれます。

保育者と子ども、子ども同士の距離が近く、大きな家のようなアットホームな環境が、小規模保育の魅力のひとつです。

先生とのコミュニケーション

小規模保育では、通っている子どもの人数が少ないため、先生と保護者のコミュニケーションを密にとることができるという利点もあります。日々の送り迎えで保育園に出入りする保護者の人数も少なく、先生サイドも保護者の顔と名前が一致しやすいようです。担当以外の先生からも、日々の子どもの様子を聞いたりすることができるでしょう。

保育士

小規模保育では、規模が小さいため、大きな幼稚園や保育所では勤務を避けている保育士が再度資格を生かして仕事復帰をする方が多数いらっしゃいます。保育士不足の観点からみても、保育士確保が出来る環境があるのは大事な事だと考えます。運動会や発表会といった行事の負担も少なく、残業や会議も少ないため、負担が少ないのは働く上でのメリットだと考えます。体力的な負担も軽減でき、人間関係についてのストレスも緩和することでできるでしょう。

小規模幼児保育すいれんは、子どもの笑顔は未来の財産と考え

互いに尊重し認め合う環境の中で共に成長し未来を繋ぐことを掲げています

愛育教育を軸に、愛情深く関わりコミュニケーション感覚を養う

理念としては、子ども達の生きる力をより豊かにより強く育むために、

沢山の愛と沢山の笑顔で子どもが主役となる保育

方針としては、子どもが、自分もみんなも大切にできる温かい心、優しい心が育ち

子どもが素直に「ありがとう」を言える感謝の心と平和の心

幼児期をどのような環境で育つかで、その後の学力はもちろん社会人になってからの人間関係にまで影響があることが分かっております。だからこそ、愛育教育が必要だと考えます。

生後120日目から預けられる。おむつなどの必要な物は全てすいれんで用意をし、手ぶらで預けることが出来る。保護者に負担をかけず、保護者の心のケアもしっかりしていきたいと考えております。